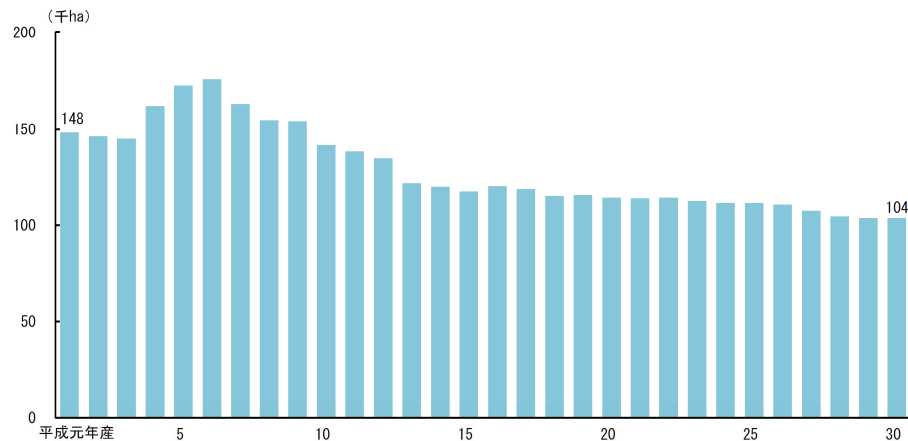


2 水稻（子実用）

■ 作付面積

・北海道における平成30年産水稻（子実用）の作付面積は10万4千haで、平成元年産の70%となっており、平成6年産をピークに減少している。

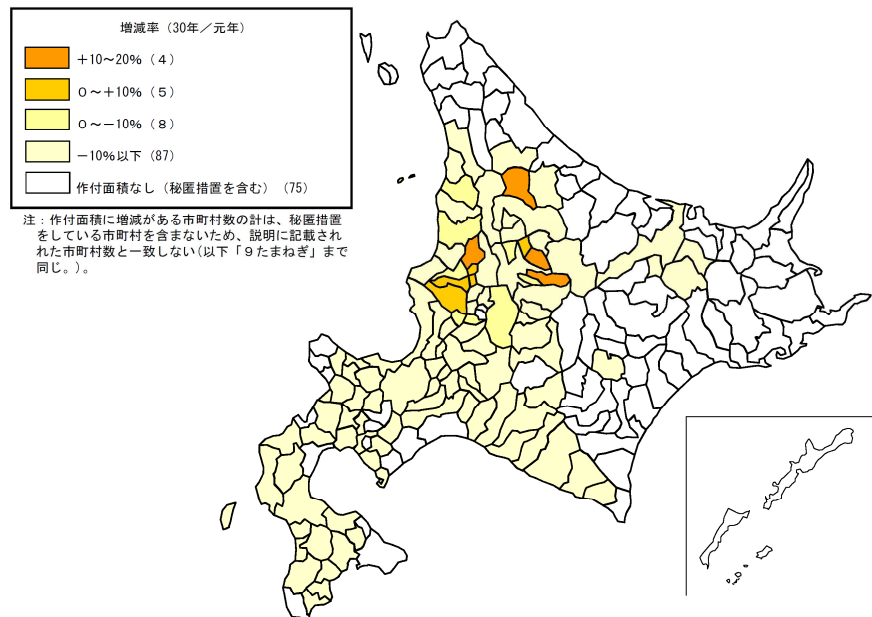


資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」（以下同じ。）

注：子実用とは、主に食用に供すること（子実生産）を目的とするものをいう（以下「3小麦」まで同じ。）。

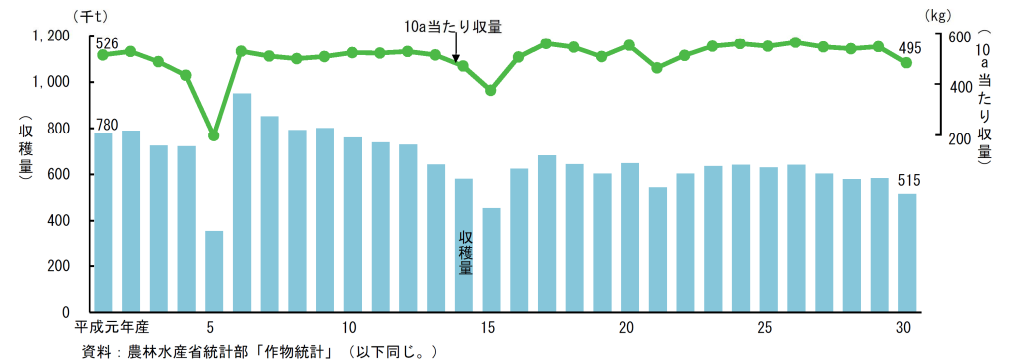
■ 作付面積の比較

・平成30年産の水稻（子実用）は道内115市町村で作付けされており、全市町村の64%を占めている。このうち、95市町村で平成元年産に比べ作付面積が減少している。

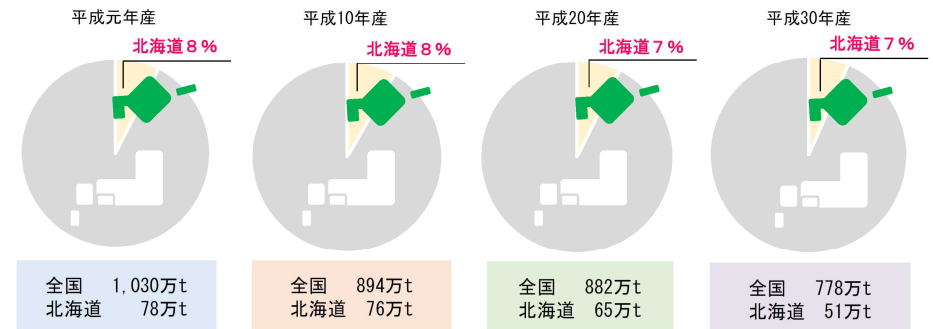


■ 収穫量と10a当たり収量

・平成30年産水稻（子実用）の収穫量は51万4,800tで、平成元年産に比べ34%減少している。また、10a当たり収量は平成22年産以降おおむね横ばいとなっている。



■ 全国に占める北海道の水稻収穫量割合



■ 上位市町の収穫量

・平成30年産は岩見沢市、旭川市、深川市、名寄市及び新十津川町の上位5市町で、北海道の収穫量の約25%を占めている。

